

# 現代經濟事情Ⅲ 世界經濟と中小企業

第12回

2008年6月27日

高田好章





今日の富士山



**今週の田畑の育ち(神奈川県平塚市付近)**





今週の田畑の育ち(滋賀県守山市付近)



車窓：庄内川





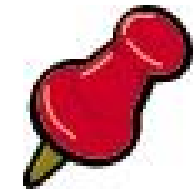
神戸製鋼・神戸製鉄所

# 今週のテーマ



日本の海外投資の歩みをみる

1970年代から



# 日本の海外投資の歩み

1970年代から



# 1970年代



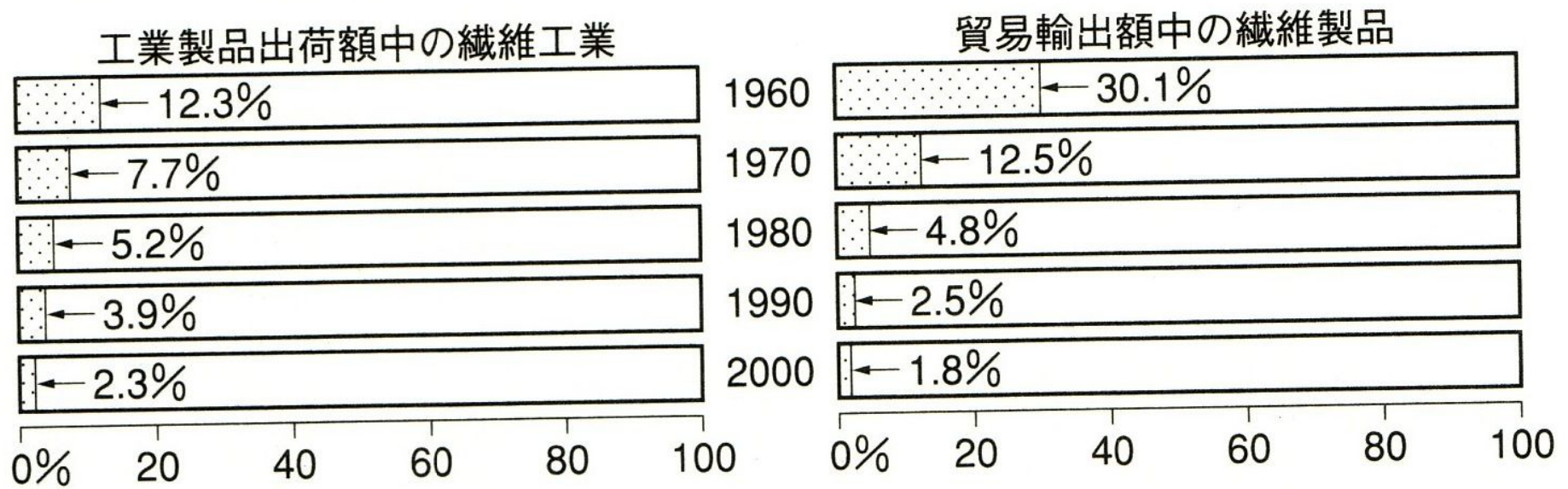
1955年～1973年

国内設備投資主導による高度経済成長期

貿易面での対外進出：商品輸出、輸出大国

貿易摩擦 繊維

図 23-1 わが国の繊維工業の地位低下



経済産業省「工業統計表」および日本関税協会「外国貿易概況」による。

# 1970年代の 日本企業の海外進出

大幅な円高を背景に海外投資  
発展途上国向け：58%、半分以上  
非製造業が67%以上、

この時期の海外投資は、  
資源開発型投資が中心、資源の安定供給

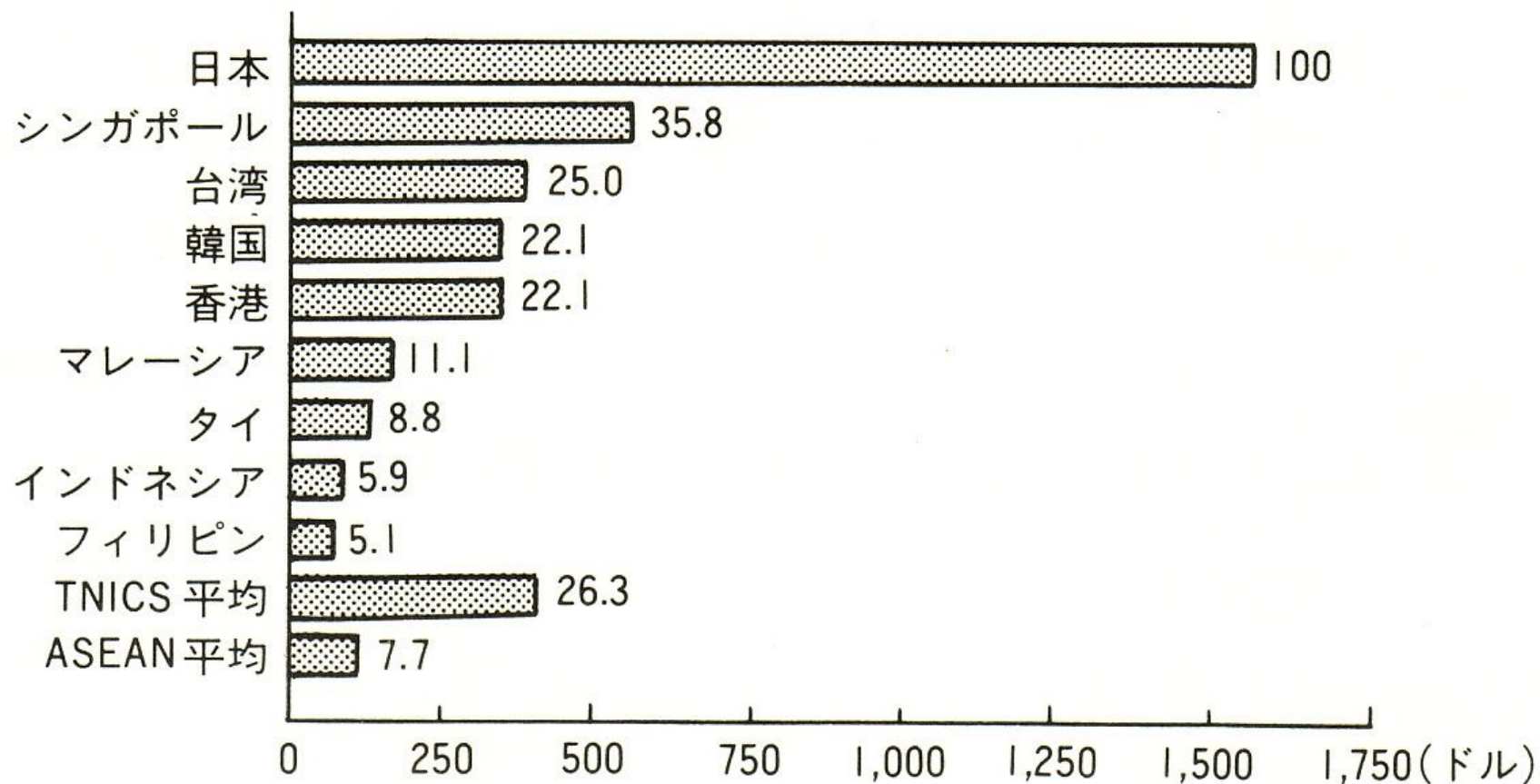


# この時期の製造業投資 アジアの低賃金を求めて





図 2-4 アジア諸国における賃金比較



(注) 製造業生産労働者等月額賃金。

グラフのなかの数字は日本を100としたときの割合。

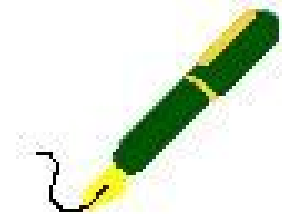
アジア NICs, ASEAN の平均値はそれぞれ4ヵ国・地域の単純平均値。

(出所) 『通商白書』昭和63年版, 13ページ。

# 1970年代の特徴

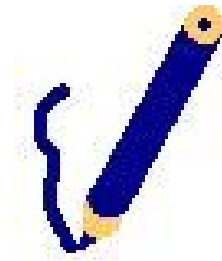
アジア、中南米における工業化政策で企業誘致による

本拠地を国内においての企業進出  
国内の大企業と中小企業の連関が  
海外でも構築  
商社の仲介、先導、金融機能利用



1970年代後半にかけて  
アジア、中南米、中近東、アフリカ等の  
発展途上国向けが伸びる

# 1980年代



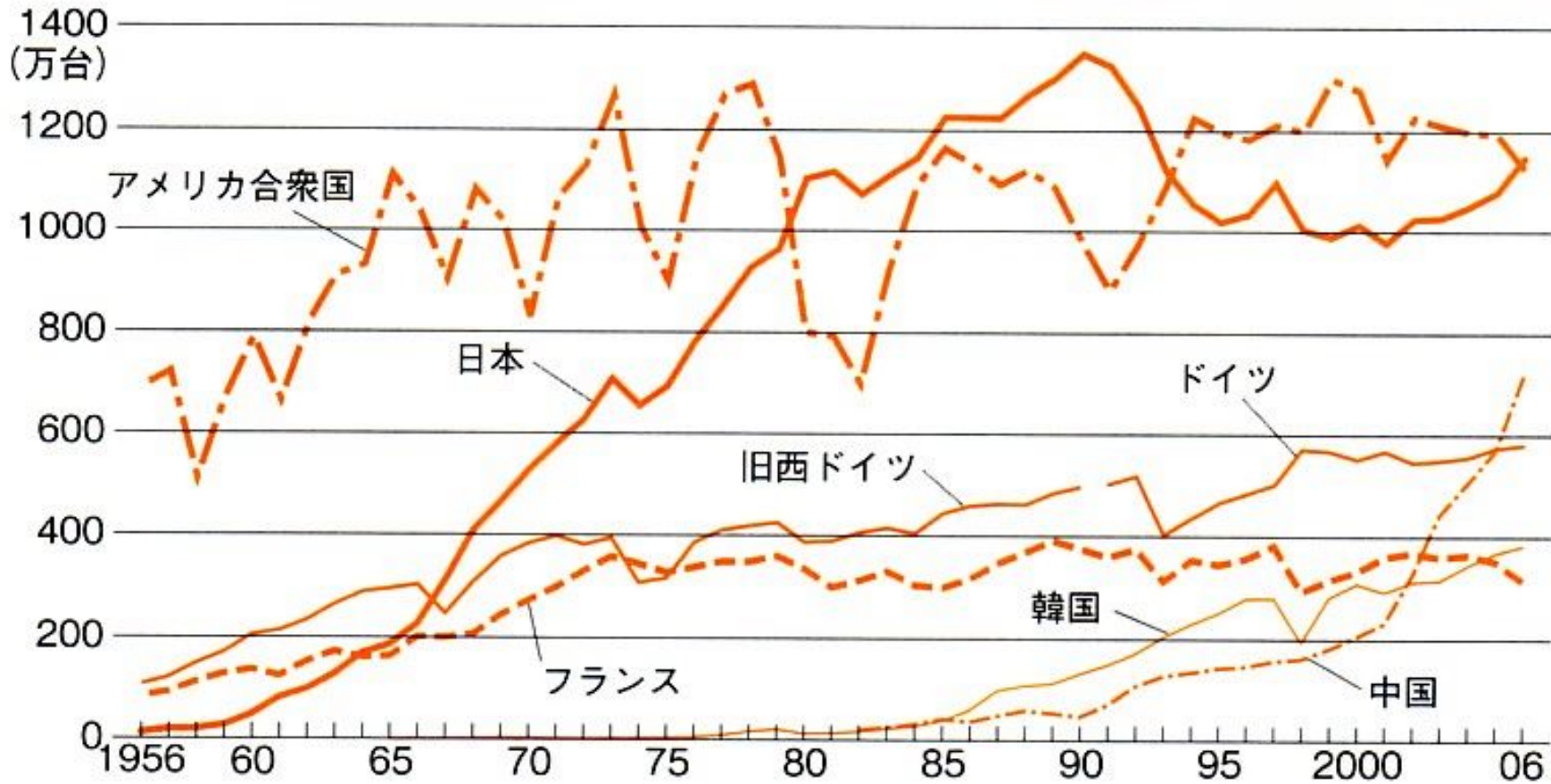
第1次石油危機 → 保護主義  
貿易摩擦  
鉄鋼・テレビ・工作機械・自動車  
VTR・半導体

③日本の自動車生産・輸出と日本メーカーの海外生産（日本自動車工業会しらべ）





### 5 世界の自動車生産



日本自動車工業会しらべ。国によって自動車の生産として含む範囲が変更されることがあり、データの取り方が変わる場合があります。フランスのデータは1997年まではKD車両を含んでいますが、ほかの国でもデータの取り方が変更されている可能性があります。

# 輸出自主規制と現地生産

輸出の自主規制：

アメリカ、ヨーロッパ向け、数量監視

現地生産に変わっていく。

国内に生産基地を残しての進出

下請企業の海外進出も始まる

部品生産の拠点作り

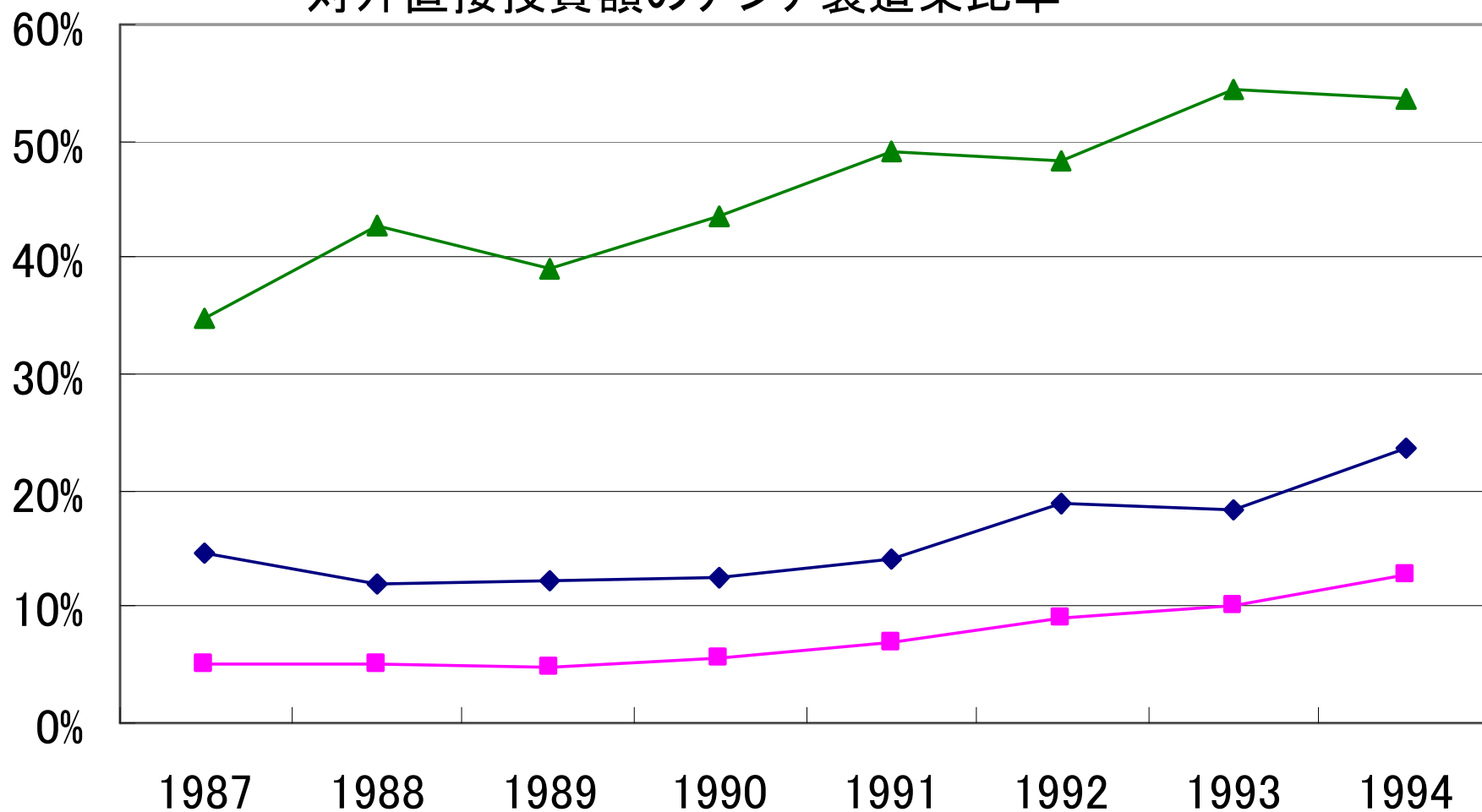
次第にアジアにシフトする



	対外直接投資（単位：億ドル）		
	総額	うちアジア	アジア製造業
1987	334	49	17
1988	470	56	24
1989	675	82	32
1990	569	71	31
1991	416	59	29
1992	341	64	31
1993	360	66	36
1994	411	97	52

対外直接投資額に占めるアジア

対外直接投資額のアジア製造業比率



—◆— アジア比率    —■— アジア製造業/全体    —▲— 製造業比率/アジア向

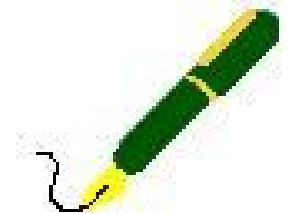


# 1980年代の特徴

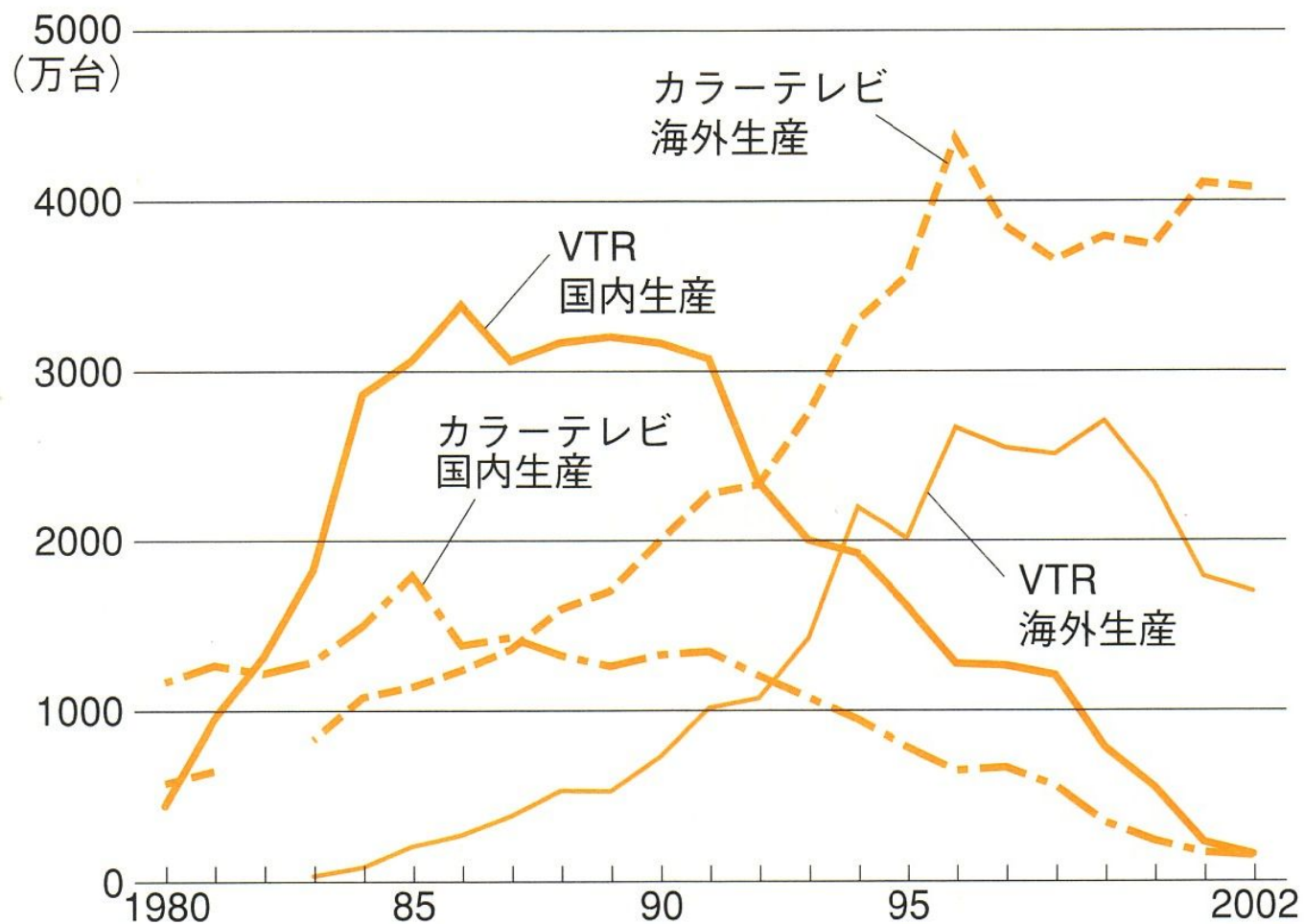
銀行や保険も進出をはじめ、  
日本企業を金融的にバックアップ

企業内国際分業の拡大、国際下請生産

海外投資による輸出の代替：  
海外への生産拠点の移動



欧米での保護貿易、地域統合の動きが現地  
生産を促した



## 15 カラーテレビ・VTRの国内生産と海外生産

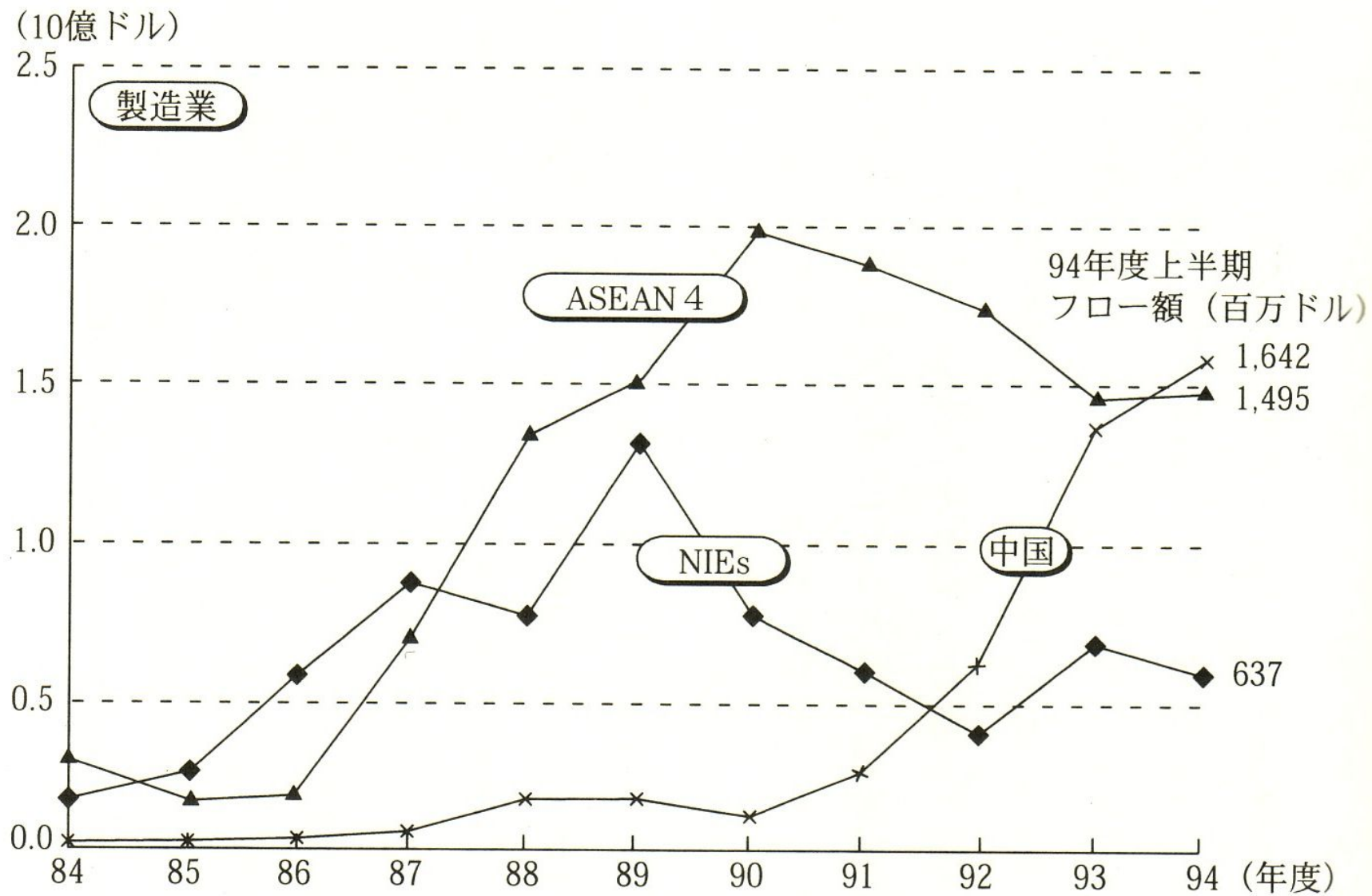
電子情報技術産業協会ぎじゆつしらべ。テレビはえき液しょうをふくまず。海外生産は日系企業の各海外拠点での生産台数の合計で、会計年度。1982年の海外生産は調査がなかった。

この時期に、先進国相互だけでなく  
発展途上国への海外投資が本格化した

特に、東南アジア、中国への投資が増加  
世界経済に新しい局面をもたらしてきた。



図 3-2 日本の対東アジア直接投資の推移 (1984~94年)



# 1990年代



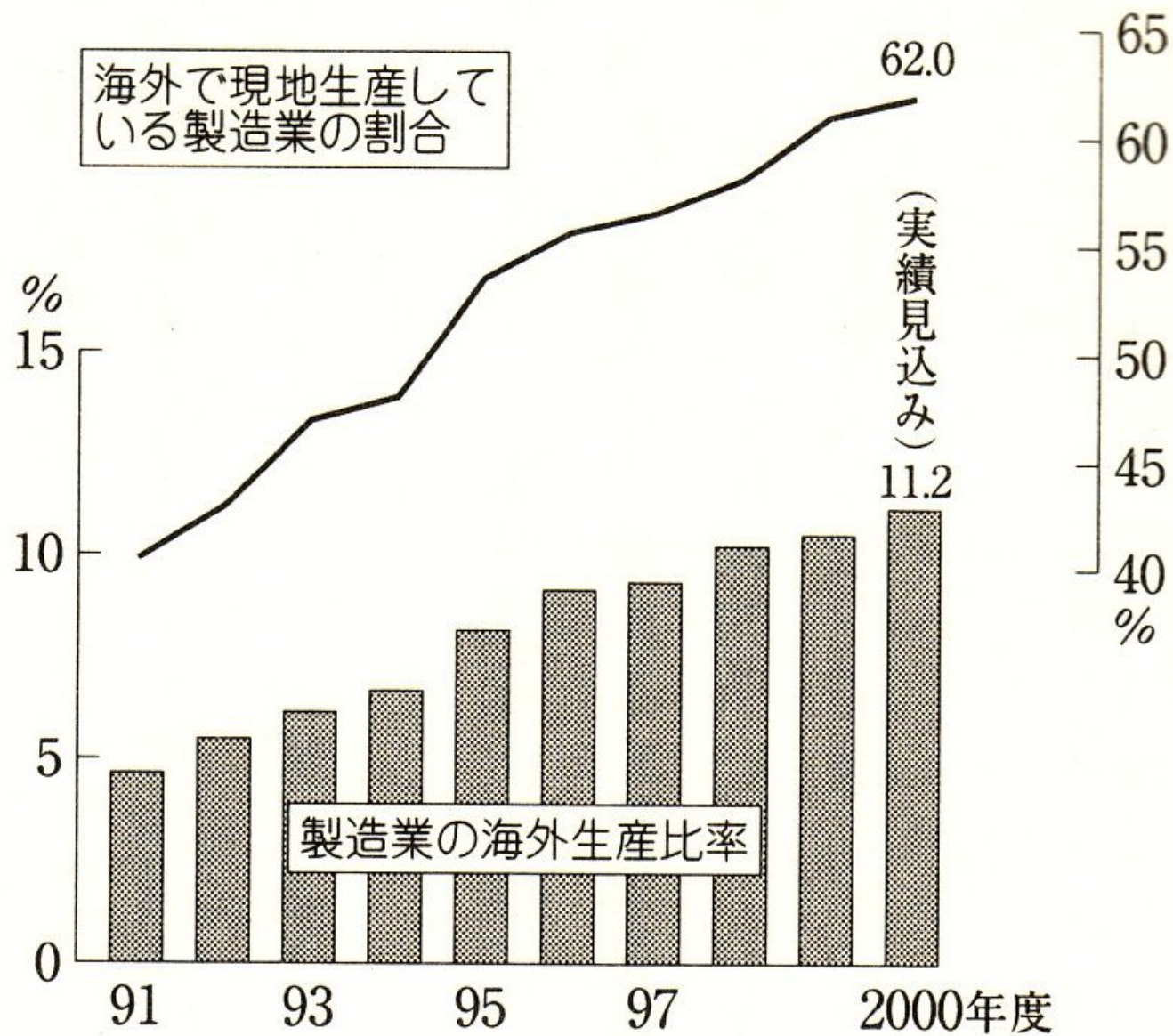
先進諸国が不況期に入った

グローバル化の進展

グローバル・スタンダード：同質化：  
欧米企業のスタンダード

企業の海外投資が停滞し始めたに関わらず、  
製造業の海外生産比率が増加していく。

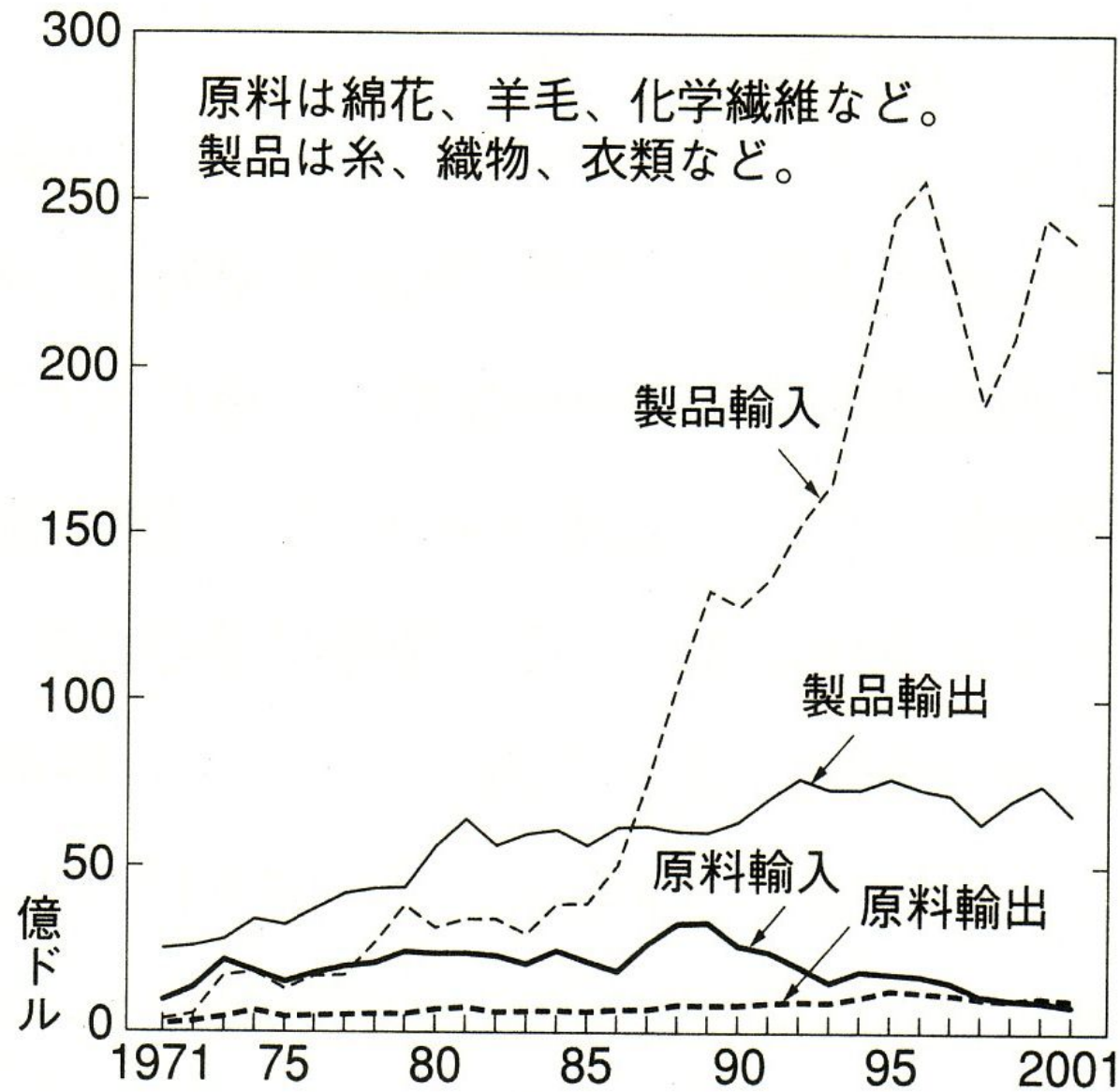
図1-1 製造業の海外生産動向



出所) 内閣府調べ (『日本経済新聞』2001年8月9日)。



図 23-2 繊維原料・製品の輸出入



経済産業省「通商白書」(2002年版)による。

# 1990年代の特徴

日本的経営が影をひそめる。

(終身雇用、年功序列、企業内組合)

1993年以降の円高の進行で  
国際競争力を失った生産部門が  
アジアへシフトした。

特に、80年代のNIES向けでなく、  
中国、ASEAN向けに増加

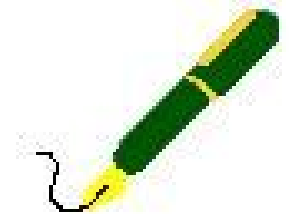
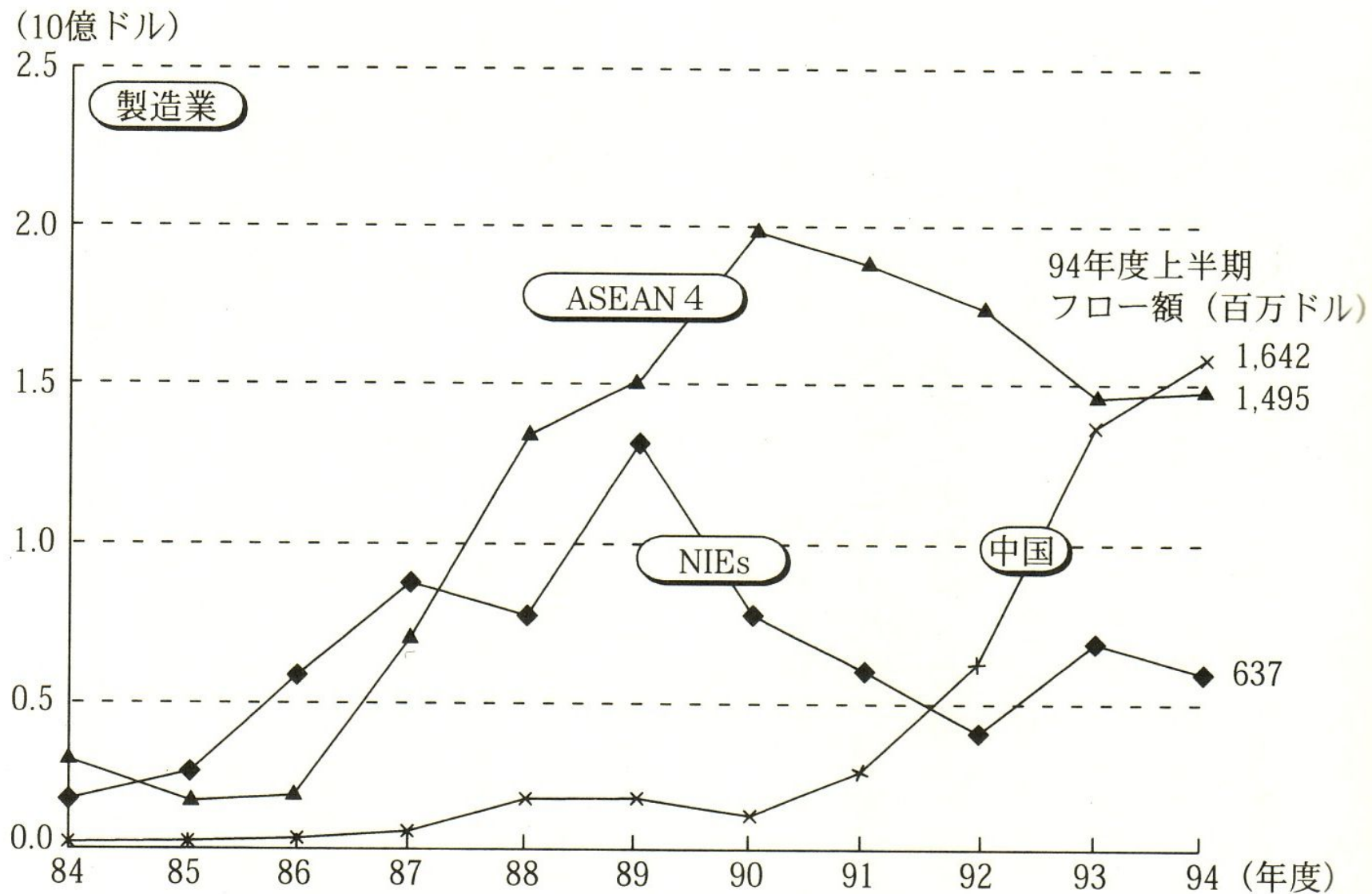


図 3-2 日本の対東アジア直接投資の推移 (1984~94年)



## 国際分業構造の進化

特に日本とアジアの分業関係の深まり

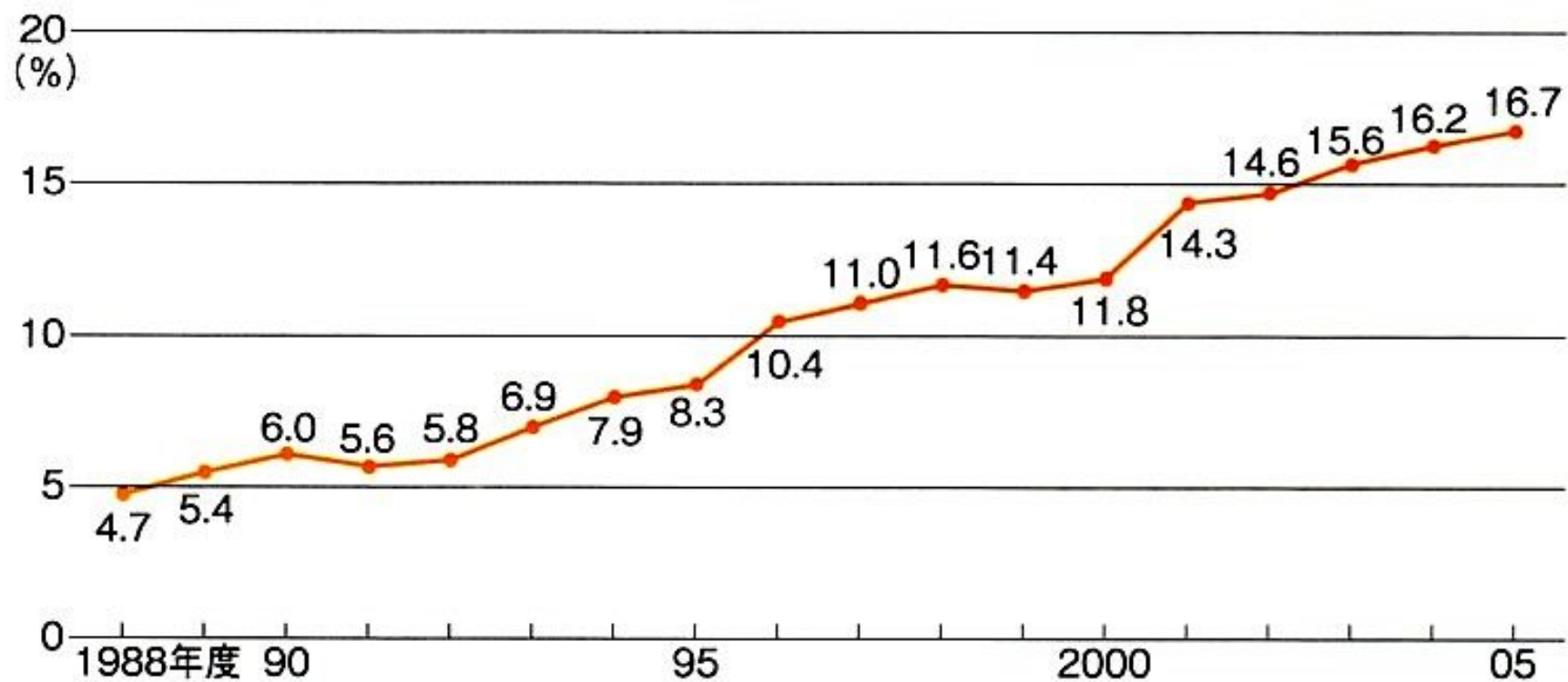
現地で生産できない基幹部品や素材を日本から調達する。

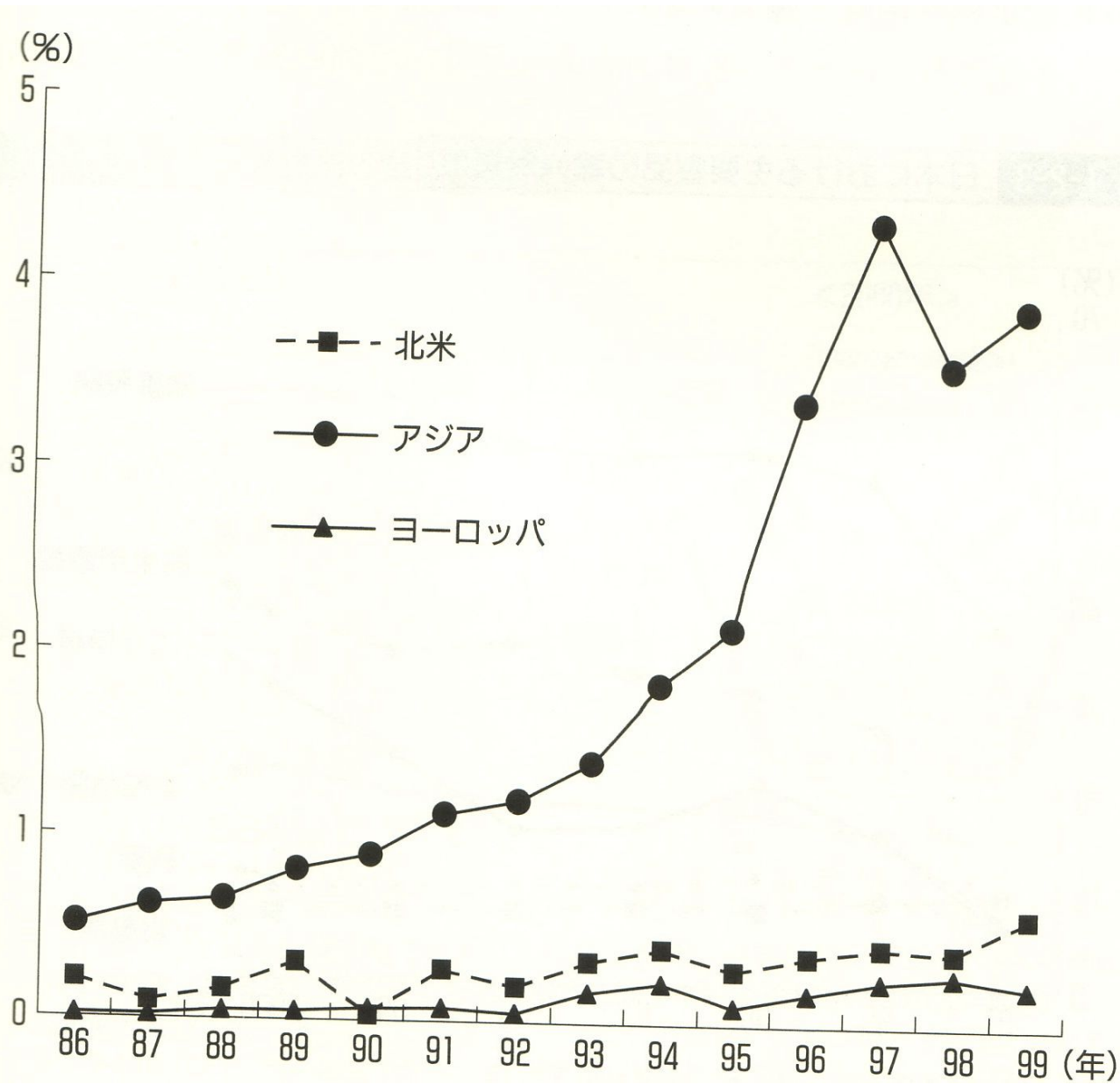
垂直分業関係：

低・中級品は現地生産で、  
高級品は日本国内で生産。



### ③ 海外生産比率のうつりかわり





日系企業による逆輸入比率(地域別)



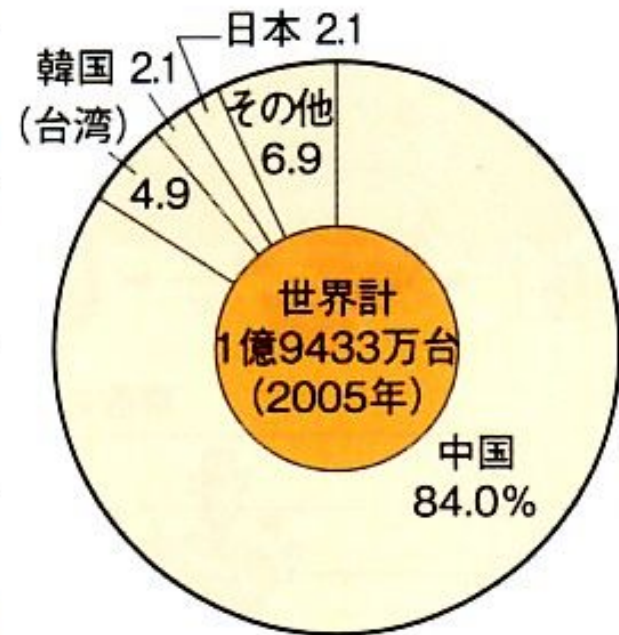
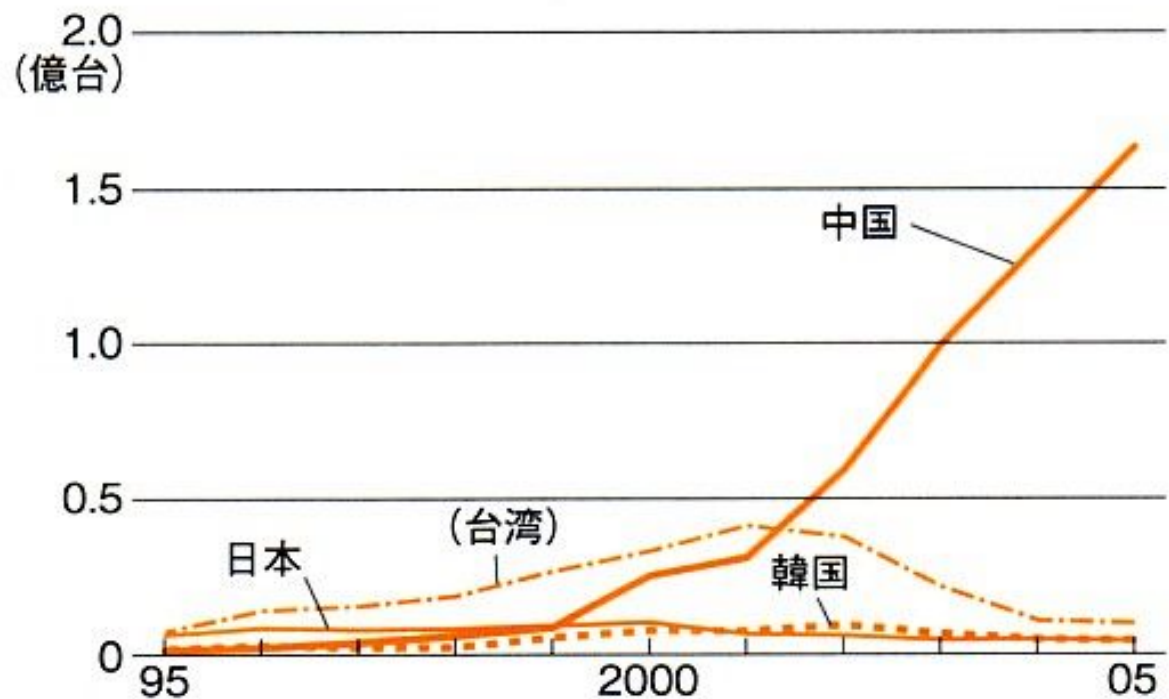
## 2000年代



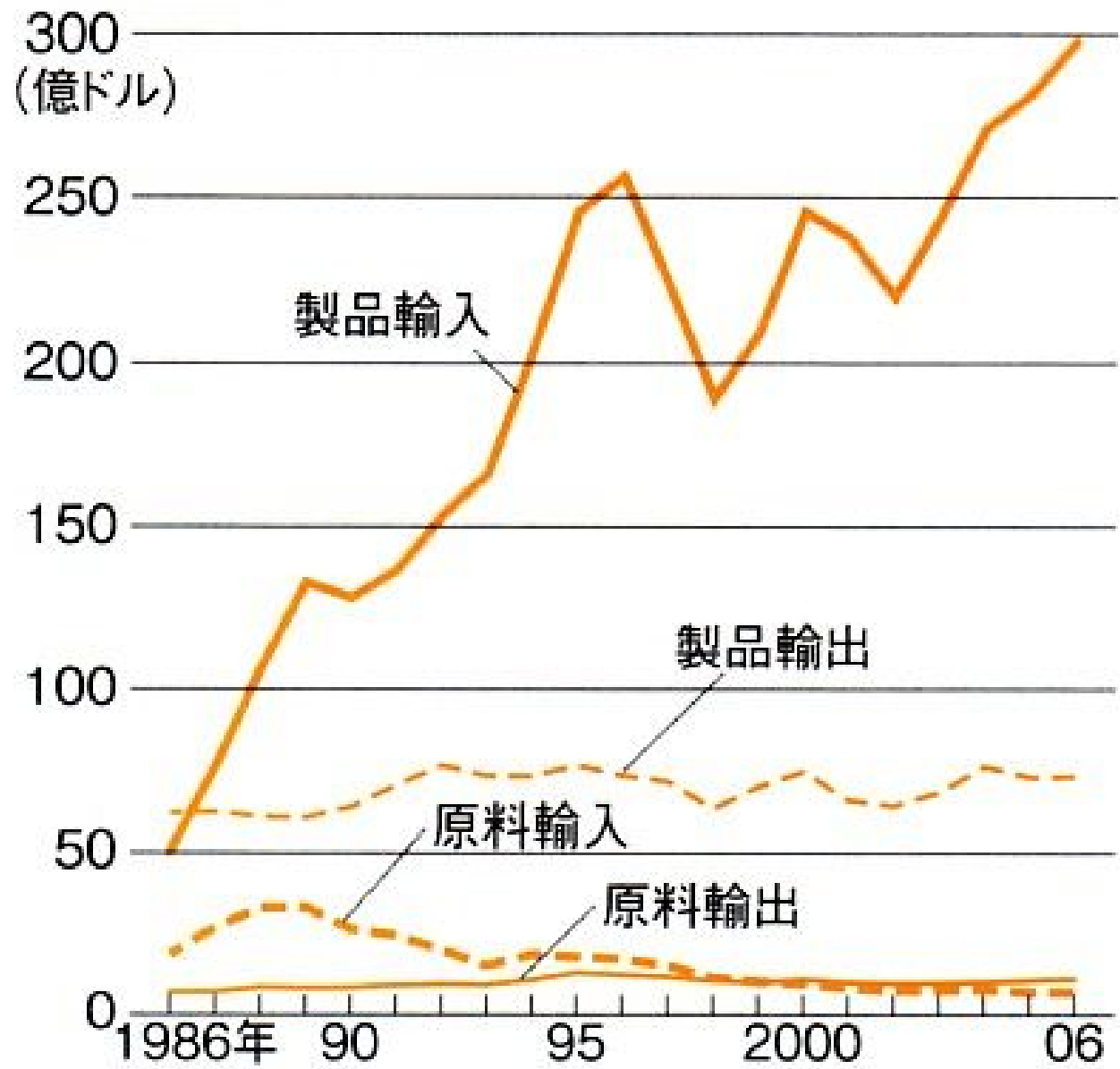
水平分業型へ急速に切り替えつつある。

素材から高付加価値品まで幅広い業種に及んでいる。

## 21 世界のパソコン生産台数

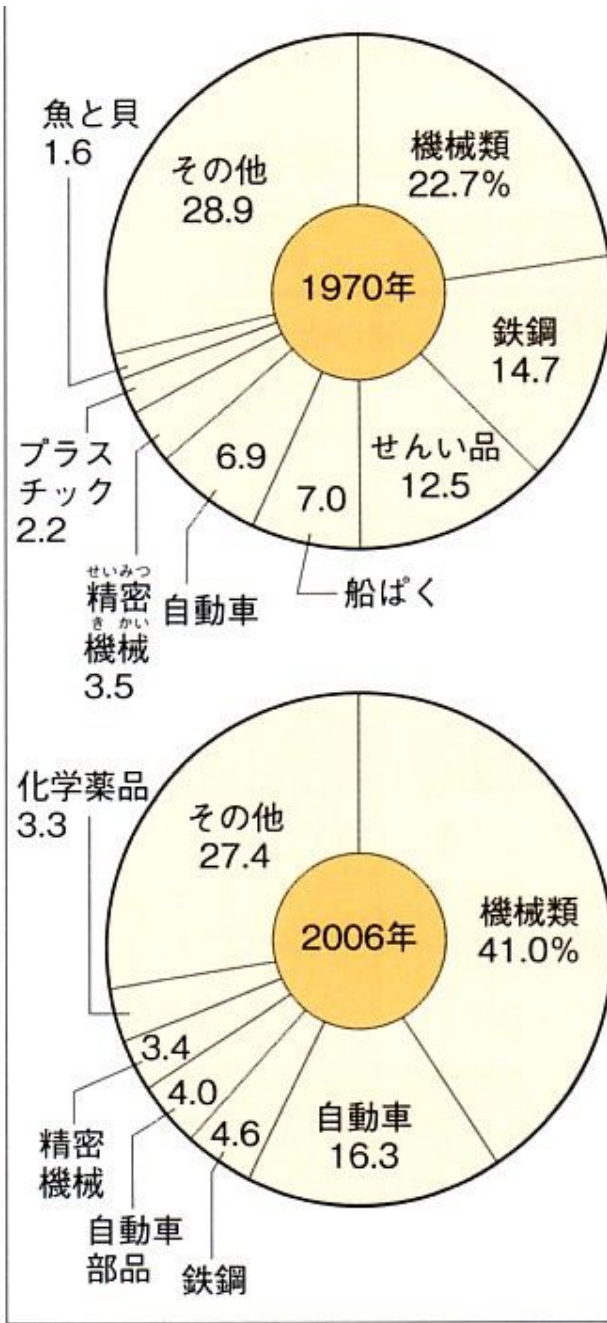


電子情報技術産業協会しらべ。生産台数はそれぞれの調査時点でのもの。

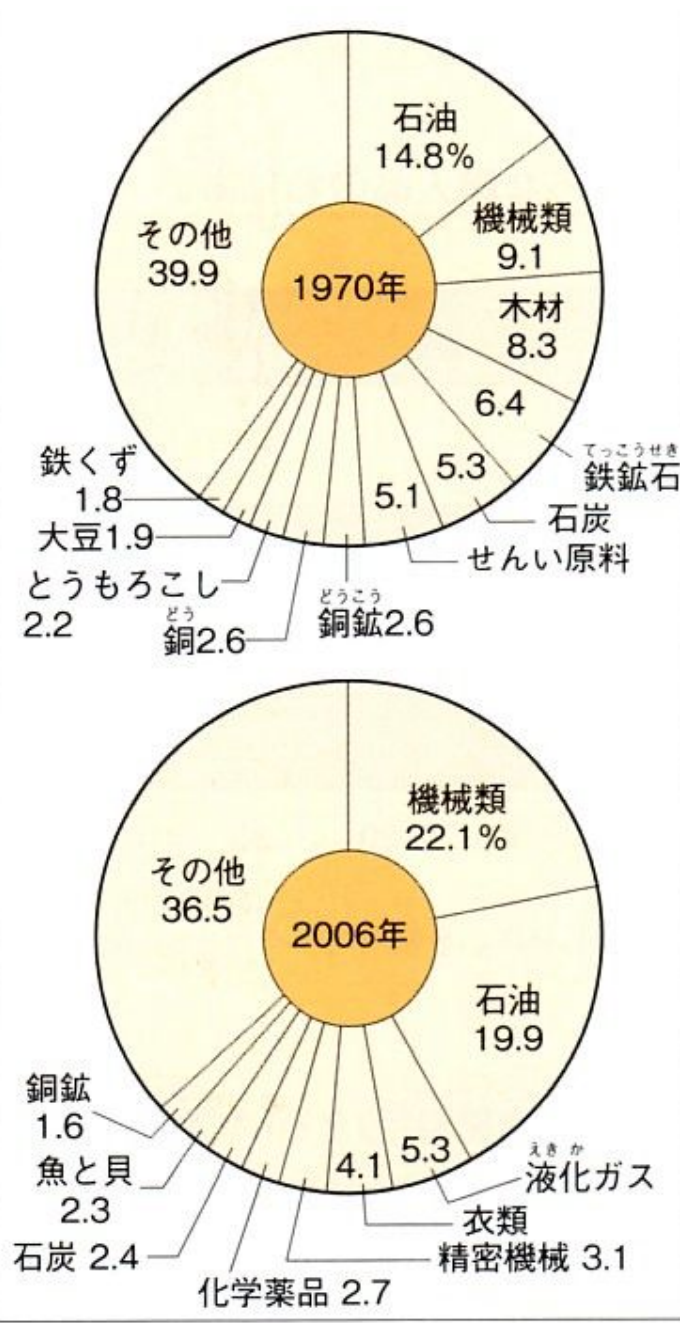


## 繊維工業の輸出入

# 輸出



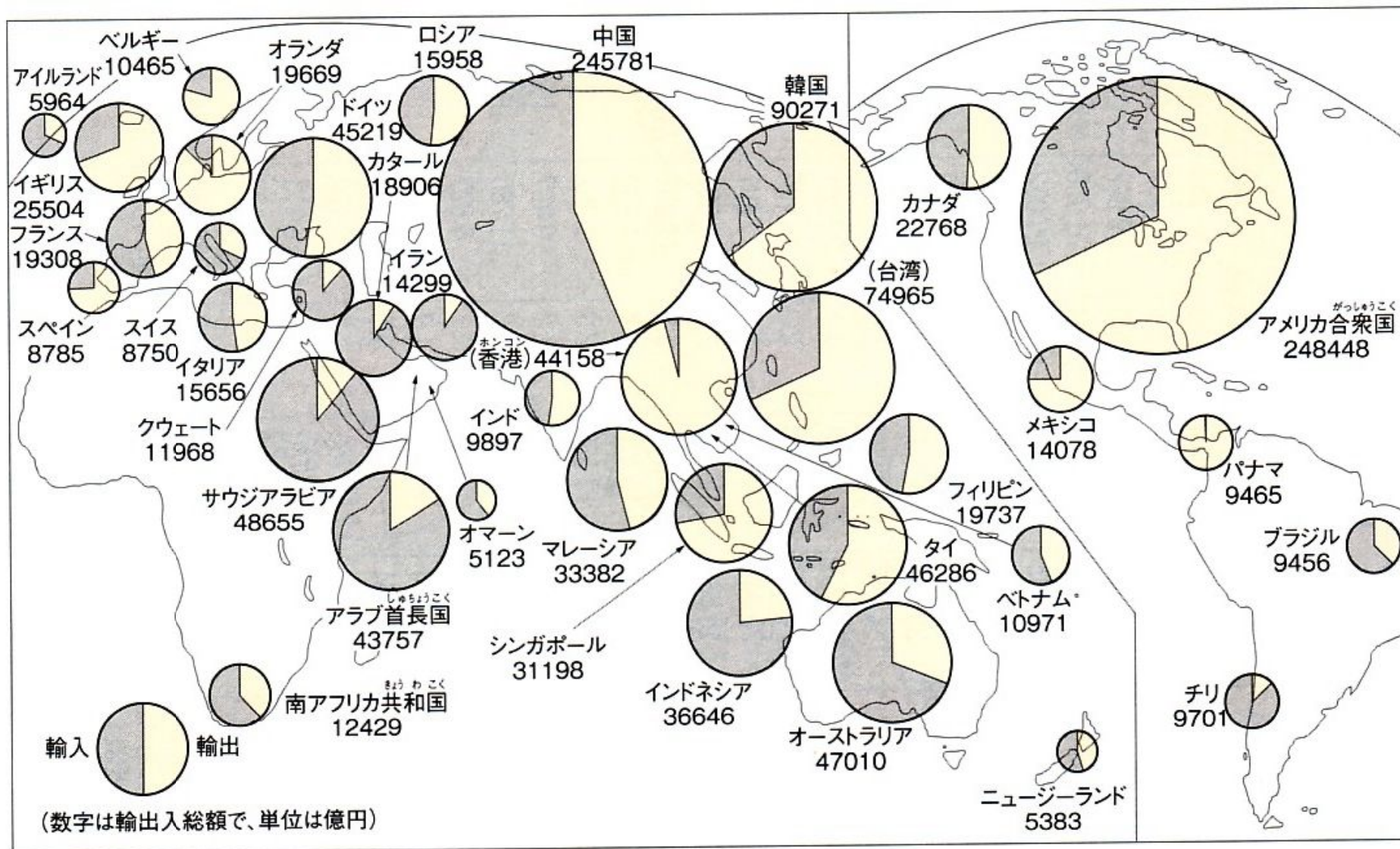
# 輸入



## 輸出入品のうつりかわり



⑩日本のおもな貿易相手国 (2006年)

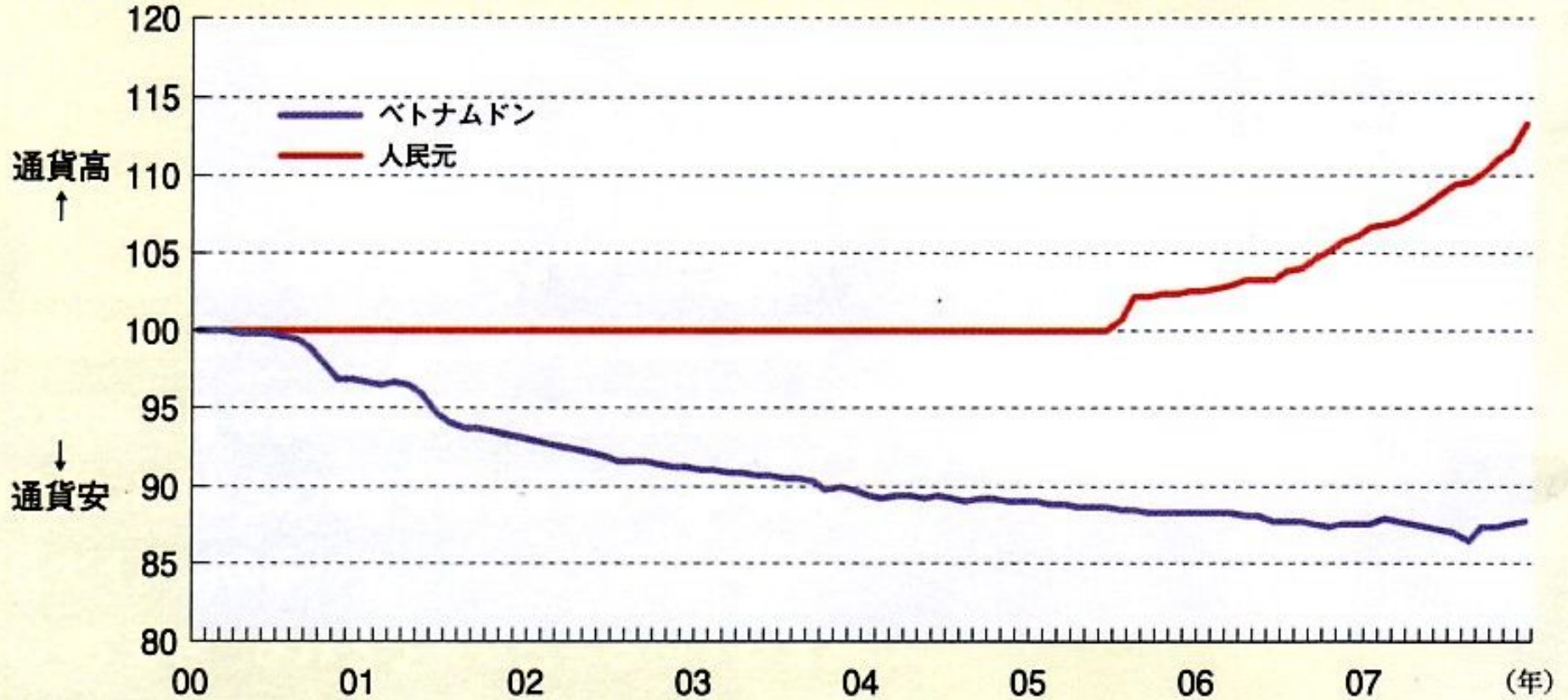




（出所）ベトナム統計年鑑、NNA

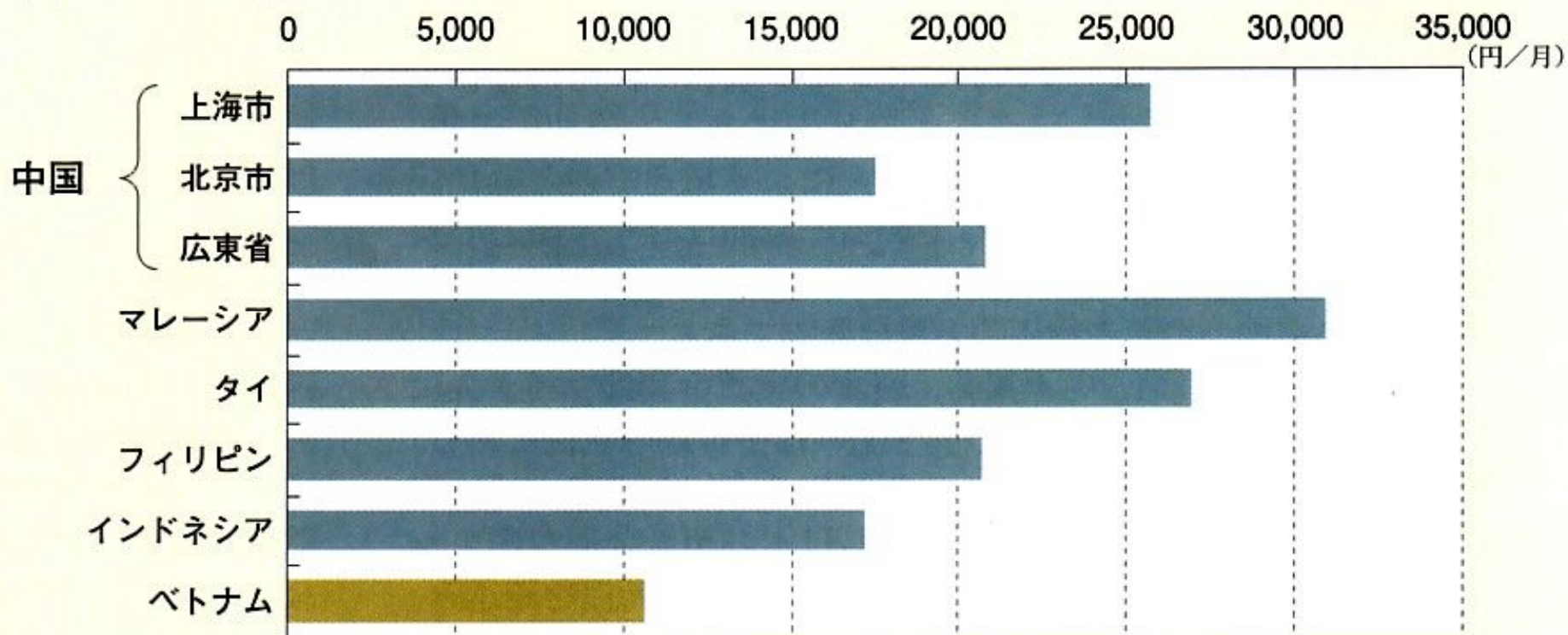


人民元とベトナムドンの対USドル為替相場の推移 (2000年1月=100)



(出所) CEIC

# 中国とASEAN諸国に進出している日系中小企業の月間賃金 (2006年)



(出所) 中小企業金融公庫「アセアン進出企業の現地法人実態調査 (第12回)」  
同上「中国進出中小企業実態調査 (第7回)」



## 台湾のエレクトロニクス企業のベトナム進出情報（2007年）

会社名	進出先	事業内容
鴻海精密工業（フォックスコン） 【世界最大のEMS <sup>(注)</sup> 業者】	バクニン省	カメラモジュールやマザーボード、コネクターの生産
仁宝電腦工業（コンパル） 【ノートパソコン受託生産世界第2位】	ビンフック省	ノートブック型パソコン組立工場
奇美電子（CMO） 【液晶パネル生産で台湾第2位】	ベトナム北部	液晶パネル後工程モジュール（LCM）組立工場
群創光電（イノルックス・ディスプレイ） 【液晶パネル生産で台湾第3位】	バクニン省	TFT-LCDパネル工場
広達電腦（クオンタ・コンピューター） 【ノートパソコン受託生産世界最大手】	ベトナム北部	☆ノートブック型パソコン組立て工場建設を検討中

(注) EMS=Electronics Manufacturing Service（電子部品端末の組立てや基板実装などの受注生産）

(出所) NNA、Y's News





## 主要な工業団地と日系企業進出動向

### ハノイ

#### ■ タンロン工業団地

キヤノン（プリンタ）、住友ベークライト（フレキブル回路）、デンソー（エンジン部品）、東陶機器（衛生陶器）、松下電産（住設電化）、TOA（セキュリティカメラ）

#### ■ サイドンB工業団地

住友電総（ワイヤーハーネス）、旭光学工業（カメラ製品）

#### ■ ノイバイ工業団地

住友金属工業（ホットコイル加工）、豊田通商（金型製作）

### ハイフォン

#### ■ 野村ハイフォン工業団地

ローツェ（半導体製造装置）、ニチアス（ガスケット）

### ホーチミン

#### ■ タントゥアン工業団地

日本電産トーソク（軸流ファン）、日機装（医療器具）、グンゼ（下着）、古河オートモーティブパーツ（ワイヤーハーネス）、駿河精機（プレス金型部品）、日本マタイ（コンテナバッグ）、JUKI（ミシン）、エムテックス松村（自動車部品）

#### ■ ホーチミン市近郊

松下電産（TV、オーディオ）、東芝（TV）、ソニー（TV、VTR）

#### ■ ドンナイ省の工業団地群

富士通（HDD用プリント配線板）、三洋電機（洗濯機、冷蔵庫）、花王（シャンプー等）味の素（調味料）、久光製薬（医薬品）、古河電工（銅線）、トーキン（ノイズフィルター）マブチモーター（小型モーター）、ムトー精工（金型（プラスチック成型））

#### ■ ベトナム・シンガポール工業団地（VSIP）

コニカ（カメラ）、日東電工（フレキシブル回路）、フジクラ（光ファイバ）、日本パーカライジング（金属防蝕処理）、ロート製薬（医薬品）





## ベトナムでの日本による溶接技術者養成



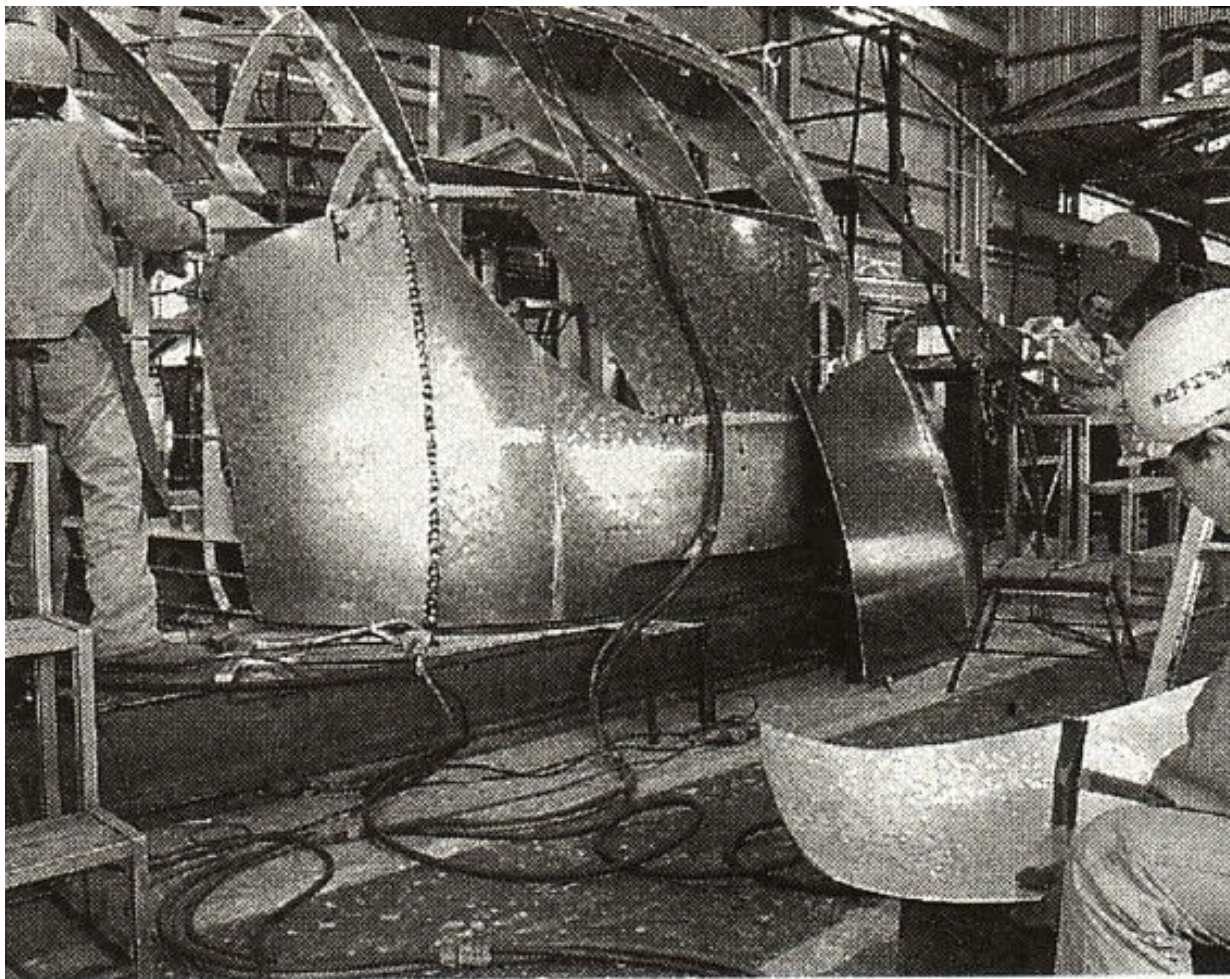
# 今週のテーマ



日本の海外投資の歩みを見る  
1970年代から

終わり

# 今週の元気な企業と人

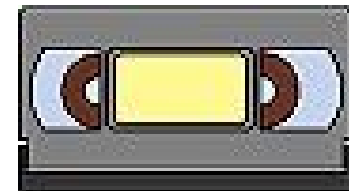


山下工業所(山口県下松市)

日経 2008-04-30夕

# ビデオ鑑賞

東南アジアに進路を取れ  
頑固者シャツ職人対ベトナム人



ガイアの夜明け

TV東京: 2005年10月4日放送

21分

# 現代経済事情Ⅲ 世界経済と中小企業

第12回 終わり

2008年6月27日

高田好章

